

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201435		
法人名	株式会社 ケアサービス希慈		
事業所名	グループホーム希慈	ユニット名	
所在地	宮城県石巻市新成3丁目9-17		
自己評価作成日	令和 2年 2月 19日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2年 8月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「介護してあげています」ではなく、「してあげている」という気持ちを一切持たず「させて頂いている」という事を常に忘れずに、利用者様お一人お一人の生活を第一に考え穏やかに、ゆったりと過ごして頂けるようにしている。本人様と家族様の絆を大切にし月に一回は、利用者様の日常生活の様子を書いた、お手紙をスナップ写真と共に送付し、職員、家族様と共に本人様の日常生活の様子を共有している。又、利用者様だけではなく職員に対しても働きやすい環境を考え、声に出せない意見や、気づき等を引き出す為の「投書箱」を設置している。自由に投書する事により意見も増えミーティング内容が充実し、より良い介護ケアにもつながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東日本震災後に発展を続けている閑静な新興住宅街の一角にある。時折新しい住民が挨拶に来訪する。法人理念「地域から信頼され愛される施設を目指します。利用者様と職員を大切にいたします。」を基にホーム理念「介護させていただいております」を作った。毎日のおやつ前の体操、食事前の嚥下体操は欠かさず実行して残存機能維持を図っている。入居者を尊重し話しに耳を傾け気持ちを理解して、楽しく穏やかに暮らしていただけるよう努めている。新設された渡波中学との交流が始まる等地域との関係も深めている。目標達成計画であった夜間想定避難訓練は達成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム 希慈 )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念及び職員の個人目標を一人一人挙げてケース記録に添付し、ケース記録を開いた時に、いつでも確認、振り返りが出来る様にしている。	ホーム理念「介護させていただいております」を開設以来継続している。毎年度末に各自目標を挙げ、理念と共にケース記録に添付し確認している。入居者の話に耳を傾け実践に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している為、市報等の受け渡しがある。また、民生委員様より情報を頂き地域に溶け込む様にしている。	地域の夏祭りや中学校のバザー、運動会に招待される等交流がある。ボランティアの演歌教室の来訪があり、踊りや歌と一緒に楽しんだ。近隣の床屋は馴染みの関係となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんへの力をお借りして運営推進会議でしせつの事を報告し民生委員さんから発信して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の開催した行事や次回の予定などの報告を行い、参加頂いている方から意見や、質問等を頂き、サービスの向上に活かしている。また、職員の研修等の報告も行っている。	地域包括職員や民生委員、家族で構成し2か月毎に開催している。台風の影響や誕生会、買い物ツアー等の行事と外部研修報告をしている。質問があり、車いすの選び方や簡易トイレの使用法等助言した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点や心配事、困難事例等の相談を市町村担当者へ連絡したり出向いたりしアドバイス等をもたらしている。	介護度認定更新の代行や生活保護関係の諸手続きに窓口に行く。集団指導でアンガーマネジメントを受けた。困難事例の処し方の相談等をする等連携を図っている。市の栄養士から献立の指導をもたらしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家に帰りたい等の利用者さんの言葉に対し制止はせず安全を配慮した上で見守りや行動を共にし身体拘束に繋がらない様にケアをしている。また、玄関等は夜間以外は常にオープンにしている。	身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催している。帰宅願望のある入居者には、無理に止めずに一緒に行動する等見守り支援をしている。外出が分かるよう玄関にチャイム、転倒防止にセンサーを使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの際に利用者様への声掛けが不適切ではないか、また、自分自身が「してほしくないケア」になっていないか再確認の場を設ける事によって虐待が見過ごされることが無い様に配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人制度が必要な利用者様に対し活用出来る様支援した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は契約書、重要事項説明書などを用いて家族様と確認し不安や疑問点を伺い説明し理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会の際には、必ず利用者様の近況報告を行い、その場で意見や要望を伺っている。また、運営推進会議等でも同様に確認している。	家族が通院のため車椅子を持ち込んだが、まだ歩行能力があるので家族と話し合いで、夜間とか調子が悪い時のみ使用するようにした。入居者の希望で雛祭りには化粧をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議時に意見、提案を確認している。また、職員が自由に投函出来る投書箱も設置しており提案、要望についても話し合っている。	自由に意見を投函する投書箱をホールに置いてある。毎月の会議時に話し合っている。洗濯済みの物をタンスへの入れ方が雑になった等を解決した。年1回管理者の個別面談がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制について、希望休制度を設け、職員に対し働きやすい環境を整えている。また、勤務表が出来た際にも各職員に確認してもらった後に、その月の勤務表が確定するなど十分配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修と職員一人一人のケアの力量を把握し外部研修に参加している。また、外部研修も行い共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム主催の勉強会に出来るだけ参加し、他事業所との交流を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員で利用者の状況を把握し、本人の希望や要望などを取り入れて安心して穏やかな生活が確保できる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時や入居説明の際にホームでの生活をする上で困っている事や不安な点、要望などを確認し納得されるまで話し合い信頼関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時に情報収集のチェック欄を基に確認し、本人様が最も必要としている支援を見極めサービスに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食や午前、午後のティータイムなどを共にし日々の談笑などを通し信頼関係を築きながら、お互いの関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のちょっとした変化にも見逃さない様にし家族様への報告は必ず行っている。月に一度は本人の写真と担当職員の手紙を添え、家族様にも本人の状態等を把握して頂き家族の絆を深めて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	往診のDrなどの来設も有るが、入所前から信頼している、かかり付け医院の受診や馴染みの人、場所等が途切れない様に支援している。	昔のサークル仲間や近所だった方の来訪がある。電話すると送迎してくれる理美容院がある。入居前からのかかりつけ医は馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の食事の際のテーブルの席などの配置に気を配り利用者同士が穏やかで楽しい生活が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も利用者、家族等との関係が途切れない様にし相談等を受けた場合はアドバイス等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方に合ったケアを行う為に、利用者様に耳を傾け思いを引き出す声掛けを行っている。日々の会話を大切に思いや暮らし方のヒントを得て職員同士情報を交換しケアに反映させている。	日常の会話の中から思いや意向を汲み取っている。「明るい色の洋服が着たい」との要望に家族と相談しピンクの服を買い喜ばれた。気の付いた事はケース記録に記載し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談の段階から、ご本人、家族様からの情報を収集したり、入所後の利用者様の会話からの情報を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の生活スタイルを重視しADL・残存機能力の把握に全職員が努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングやカンファレンス等で各利用者様の担当職員が中心となり意見等を出し合いながら話し合いを行い、それを基に主治医や家族からの意見も統括しケアプランを作成している。	毎月の会議で入居者全員のカンファレンスを行っている。介護計画は3か月毎に見直しをしている。本人意向で「トイレに失敗した時手伝って」のニーズに「適宜声掛け誘導する」と盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況をケース記録に記載し、その他すぐに状況確認が出来る記録表を作成し業務前には必ず確認している。また、朝の申し送りでの情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調面で不安などが場合は定期受診の他に専門医での受診等も出来る様に徹底している。また、生活面でも、その時々生まれるニーズに対しても柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域包括センター等と連帯を密に図り、早期に地域資源の情報を得て行事等にも参加する事が出来る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までと変わらない生活を送って頂く事を基に、かかりつけ医の受診も維持出来ている。また、主治医への相談等を、いつでも行える様、かかりつけ医との関係作りも大切に適切な医療を受けられる様にしている。	通院していたかかりつけ医を家族対応で受診している。往診医を利用している方もいる。家族が行けない場合は職員が同伴する。受診結果は「受診記録簿」に記載し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置はしていない為、体調面等で状況の変化が現れた際は、かかりつけ医を受診し担当医へ状況を報告し指示を仰いで頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も家族様と定期的に連絡を取り状況の把握に努め、利用者が安心して戻って来れる様に配慮している。また、退院の際には、事前に、ご家族様や医療機関の担当者に留意事項の確認を行い調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族様がどのような終末期を望んでいるか早い段階で話し合い、出来るだけ本人、ご家族の希望に添う様に支援している。	「ターミナルケア(看取り)について」を成文化し、看取りはしない事を入居時に説明をし契約書を交わしている。重度化した時に主治医から家族に説明がある。医師の紹介で対応できる病院や施設の紹介をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し社内研修を定期的に行い、緊急対応・初期対応について知識と技術の向上を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回避難訓練・通報訓練を行っている。また、緊急連絡網を作成し職員は瞬時に駆けつけるようになっている。	目標達成計画だった夜間想定での訓練を実行した。通報、避難誘導の仕方等話し合った。消防署から排煙窓を開けるよう指導があった。5分で駆け付けられる職員がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳や個性を尊重し一人ひとりに合わせた支援を心がけている。居室は完全個室性であり、プライバシーが守られ着替えや、ポータブルトイレへの排泄等も安心して行える。また、使用後のポータブルトイレも他者から見えない様に布等を掛けて対応している。	居室ドアの開放しは本人の希望でしている。プライバシー確保が安全性重視が難しい問題だと話し合っている。トイレ誘導は耳元で言葉とトーンに配慮して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者様の小さなサインや変化を見逃さずに希望等を最大限に受け入れながら自己決定して頂けるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の流れに沿って時間を決めるのではなく、利用者様を中心に生活をして頂いている。また、一人ひとりのペースを大切に希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容・洗髪や着替えなどを楽しみながら、それぞれの好みで自己決定して頂きながら支援している。また、散髪は近所の美容院へ出かけ好みの髪型にカットして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事などで、利用者様に直接何が食べたいか確認を行ったり、食事のメニューを工夫したりと食事が楽しみなものになる様に配慮している。また、片付け等も個々の力に合わせて職員と一緒にしている。	献立は職員が作り調理している。週1回入居者と一緒に買い物に行く。週1回の希望食の日、行事時の食事は入居者の要望を取り入れている。刺身や団子、コロッケが好まれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の好みや食事の状態を考慮し支援している。献立も偏りが無い様工夫し水分のみの摂取量も800m～1200m以上飲んで頂ける様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯を使用している方等、必要な支援を把握し利用者様の個々の力に応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他に利用者様の小さなサインを見逃さない様にし、その都度トイレ誘導、声掛けを行い自力で排泄出来る様環境を整えている。また、排泄チェック表を活用し、パターンを把握している。	全員がリハパンを使用し、その方に合ったパッドを使用している。トイレでの排泄を支援している。その人にあった誘導で失禁を防いでいる。夜間のみポータブルトイレを利用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取量、便の状態、排便の有無、本人の状況など総合的に判断し適切に排便コントロールが出来る様に支援している。毎日昼食前の体操も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタル等を確認しながら、体調や気分が優れない時は翌日に入浴をして頂いている。入浴時間帯は制限しておらず安全に配慮しながらゆったりとお話をしたり音楽を聴きながら入浴を楽しんで頂いている	週2～3回を基本とし、時間帯は決めていない。午後からの入浴希望が多い。殆んどの方が風呂が大好きである。1対1の対応で安全に安心してゆったりと入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのライフスタイルを尊重し、好きな時間に休んで頂くよう徹底している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は各利用者様の状態に合わせた服薬支援を行っている。また、服薬の処方内容が変更になった場合は処方箋を基に、その都度全職員に薬の説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活や行事等の際に利用者様個々に合わせた役割をお願いし、職員は感謝の気持ちを必ず伝え、また次に繋がる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでも本人の希望に添って外出できる様にしている。また、本人の思いや希望を把握し家族様の協力を得ながら出かけられるように支援している。	初詣や花見等季節の外出は年間行事として出かけている。普段はホーム周辺を散歩している。買い物ツアーでスーパーに買い物に行ったり、昔料理屋だった方の店に食事に行く等楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出した際は、ご自分で商品を選んで頂き会計も利用者様、個々に合わせた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に添い、ご家族様へ電話をしたい時は出来る様にしている。また、毎月利用者様の生活の状況や本人様が話した事を手紙でご家族様に送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースのリビングには、ゆったりと過ごしやすい様に食事の席の配置や季節ごとの装飾物、行事の思い出の写真などを貼り居心地の良い空間を工夫している。	リビングの壁に入居者の笑顔写真や季節ごとに入居者と貼り絵を作り、飾ってある。2カ月毎に話し合って模様替えをしている。テレビの見やすい所にソファを置き、思い思いに座っている。職員が毎日掃除をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者様のプライバシーに配慮し、独りの時間も大切にしながら気の合う利用者が交流を図れる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物や慣れ親しんだ物を持ってきて頂くように家族様に話し、出来るだけ自宅との環境に近い状態で安心して不安のない生活を送って頂ける様努めている。	洗面台やベッド、エアコン、クローゼットが設置してある。家族の写真や孫の作品の絵画を飾り、自宅の雰囲気を出している居室もある。ノンアルコール飲料をのんびり飲んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮しながら各利用者様の状態の把握に努め、一人ひとりの「できること」「わかること」を生かし自立した生活が送れるように工夫している。		